

地盤整備事業で整備された農地を中心として、優良農地を保全することは、最優先課題であると思います。

一方で、恵まれた交通条件を有していることから、都市圏の膨張現象による住宅用地や工業用地等に対する需要も多く、通常の開発による用地の混在は、居住環境や生活環境を悪化するという問題も引き起こしています。

本町は全域を農業振興地域と指定していて、このことからイオン九州のような大企業の用地選定も、農用地区域を含めた検討を行わざるをえません。

商業地等への開発の動きが強まることは避けられないことから、農業振興地域整備計画による土地利用規制だけでは、将来、優良農地の乱開発が防げない可能性が高く、新たな法規制による措置を考える必要があると思います。

優良農地は住宅地域、商業地域、工業地域などゾー

ニング（機能や用途ごとに分類し配置すること）を行うつて、無秩序な開発の抑制と誘導を行うべきではないかと考えています。

まずは、国土利用計画法に基づく土地利用計画の策定が必要です。計画でどのようなまちづくりを進めるかを明らかにする必要があります。

将来とも農業の振興を図るべきエリア、都市的利用を進めるエリアとの区分を行い、土地開発の**スプロールの格差を防ぎ**、有効な土地利用を図らなければなりません。

農業振興地域の見直しや都市計画制度の導入も視野に入れ、規制と誘導を兼ね備えた土地利用の検討を行う必要があると思います。

過去に土地利用検討委員会を設置し、検討した経緯があります。土地利用計画という形までいきませんでした。委員会設置は考えていく必要があると思います。

## 未来に向けた集落内掘割の整備対策はどうなっているか。

問

答

先人が築いたクリークを大事にし、水の浄化を願う。

問

（1）集落内の掘割は悪臭がするところが多い。財源のない現状では対応が難しいが、未来に向けた整備を考えていかなければいけない。対策はどのように考えているか。

（2）井堰管理による堀の浄化、管理ができるのではないかと。どのような指導を行っているか。

町長

答

井堰管理は、上流と下流が連絡を取りながらどうするかという問題で大きく考えていかなければならないと思う。

私も井堰の管理をしているが、同じ管理者である真崎議員と携帯電話で密に連絡を取り合っている。

水を利用しながらの浄化をやっていききたい。水代の問題があるが、保水や浄化のために筑後川の導水を引き入れるという考えもある。どうしてもという死活問題になったときは、この策で浄化をしていきたいと思う。

建設課長

答

クリークの整備、泥土上げ、雑草除去、雑排水対策などが有効な手段であると思います。

泥土上げについては機械力により実施をし、泥土の掘削は地元での処理をお願いしていますが、機械が搬入できない箇所や泥土の処理が地元で出来ない箇所をどのように対応するかが今後の課題です。

雑草除去は、地元の協力で進めています。

クリークの整備事業は、行政区からの要望に基づき調査し、順次、水路の整備を進めています。箇所が多く要望に十分応えられてはいません。限られた予算の中で有効活用を図り、整備に努めていきたいと思えます。

## スプロールの格差を防ぐとは？

無計画な開発により市街化が虫食い状に形成されると、住みづらさや防災上の問題などが出てくる。土地の用途をきちんと区分することで、これらの問題を解消すること。